



学校から家庭へ、地域から地域へ、そして世代から世代へ。
 いろいろな“学び”の姿をお伝えする教育プレス。保護者の皆さんへ教育のあれこれをお知らせします。



vol.53

熊本県教育庁教育政策課
 令和2年(2020年)9月

教職員等記事
 (平成15年4月導入)



ばとん・ぱす

熊本県教育広報誌

熊本県教育委員会

学校見学・教育相談をお待ちしています！

令和3年(2021年)4月に開校予定の、熊本県立鏡わかあゆ高等支援学校と、熊本県立かもと稲田支援学校の開校準備室を8月1日に設置しました。
 学校見学や教育相談を希望される場合は、どうぞご連絡ください。

熊本県立鏡わかあゆ高等支援学校

Q 対象は？

知的障がいのある生徒

Q 設置学部は？

高等部

Q 学校の概要は？

- 高等部普通科と高等部専門学科(特に軽度知的障がい対象。卒業後の就労を希望する生徒の教育を実施。)を併置
- 学年8学級を予定
- 実践的な学習ができる9つの実習室(農業実習室、工業実習室等)を設置
- 厨房併設のランチルーム(300人収容)設置
- 専門学科の生徒を対象に、通学距離が長いなどの理由で通学が困難な生徒のために校内に寄宿舎を設置
- 地域の方々が利用できる地域開放型カフェ設置

校舎写真



問い合わせ

鏡わかあゆ高等支援学校 開校準備室
 熊本県八代市鏡町鏡村937番地
 (松橋支援学校高等部氷川分教室内)
 ☎ 0965-31-2577

熊本県立かもと稲田支援学校

Q 対象は？

知的障がいのある児童生徒

Q 設置学部は？

小・中学部、高等部

Q 学校の概要は？

- 小・中学部は、閉校した旧山鹿市立稲田小学校の校舎を改修して設置
- 高等部は、現在の菊池支援学校高等部山鹿分教室(鹿本商工敷地内)が新校の所属となる
- 小・中学部の児童生徒を対象とした通学バス(3ルート)を運行
- 地域資源を活かした教育、社会参加に必要な基礎的な生活習慣等の生きる力を高めることを目指す教育を行う
- 鹿本地域の特別支援教育の拠点校として、特別支援教育を推進

校舎写真



高等部

小・中学部(改修工事が行われます)

問い合わせ

かもと稲田支援学校 開校準備室
 熊本県山鹿市小原
 (県立教育センター内)
 ☎ 0968-42-1700

この記事に関する問い合わせ先：特別支援教育課 096(333)2683



子供たちの充実した学びのため、学校の働き方改革に御協力をお願いします！
～「熊本県の公立学校における働き方改革推進プラン」を策定しました～

熊本県教育委員会では、「子供たちの充実した学びと教職員のワーク・ライフ・バランスの両立」をめざして、「熊本県の公立学校における働き方推進プラン」を策定しました。
今後、以下の6つの方針に沿って県立学校の働き方改革を進めていきます。

①勤務時間の適正管理等

- ・タイムカード等による勤務時間の適正管理
- ・教職員の自己管理意識の向上 など

②教職員の意識改革

- ・各種研修の実施
- ・好事例集等の普及
- ・学校閉庁日、ノー残業デー、部活動休養日の設定 など

③人材の確保・活用

- ・教職員の配置拡充の検討
- ・スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材の活用 など

④業務の削減・効率化

- ・ICT 活用による業務の効率化
- ・学校行事、学校運営等の業務の見直し など

⑤保護者等の理解促進

- ・学校情報の積極的な提供
- ・学校運営協議会等での働き方改革取り組み状況報告 など

⑥教職員の健康サポート

- ・産業医による保健指導の充実
- ・ストレスチェックによる健康リスクの把握 など



この記事に関する問い合わせ先：学校人事課 096(333)2692

「熊本の学び」推進に向けた研修を実施しています！

前号で、今年度からスタートした「熊本の学び推進プラン」についてお知らせしました。今回は、8月から実施している『熊本の学び』スタート・アップ研修』の紹介です。各学校の教職員は、新しい教育の動きを踏まえ、日々学んでいます。

現在、研修の依頼が50件あり、約1,200人が受講予定です。カリキュラム・マネジメントや授業改善のポイントなどについて学び、各自の実践を踏まえて演習に取り組むことを通して、「学びの主人公」として子供たちを育てる授業やカリキュラム・マネジメントの推進について考えています。

演習題（例）

「子供の学びの側から学習を構想する」と、子供たちの学びはどう変わりますか？

参加者の回答（例）

子供たちの知的好奇心や疑問などを想定して授業を構想することで、子供の主体的な学びにつながります。子供たちは、自身の疑問などを解決するための学習が展開されることで、「もっとやってみよう」という学ぶ意欲を高めることにつながります。

参加者の感想

○子供たちが「何ができるようになるか」、付けたい力を明確にして授業に臨みたいと思いました。

○明日からの授業で、子供たちが「わくわく」するように、授業を工夫していきたいです。

○今回学んだことを基に、町内の小中学校で方向性を揃えて、小中学校のつながりがある教育活動を進めていきたいと思っています。

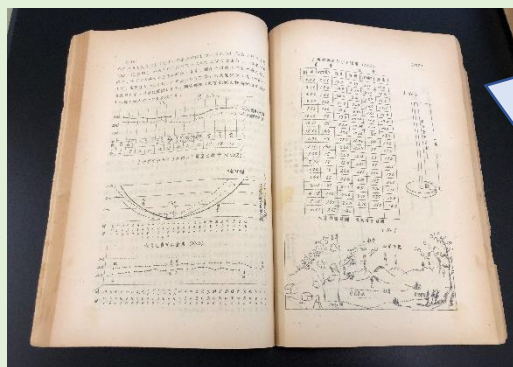
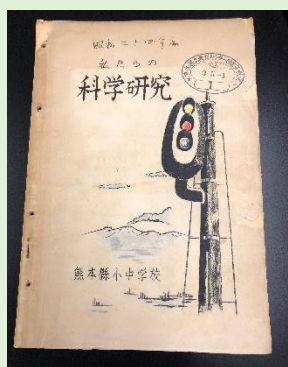


玉名管内での研修の一場面

この記事に関する問い合わせ先：義務教育課 096(333)2688

第80回 県科学展

熊本県科学研究物展示会（県科学展）は、1937年（昭和12年）2月に、「第1回児童生徒創案品表彰展覧会」として初めて開催されました。その後、科学展の歴史は脈々と引き継がれ、今年度で第80回を迎えます。児童生徒が取り組んだ科学研究物の優秀な作品を展示することで、児童生徒及び教職員の科学に関する興味・関心を喚起し、理科の見方・考え方などについて啓発する機会として毎年開催しています。



当時は今と違って、パソコン等の電子機器は普及しておらず、手描きのグラフやスケッチが多用されています。しかし、今も昔も子供たちが自然事象に対して科学的に迫る姿は変わっていないように感じます。

昭和24年発行 私たちの科学研究

【令和元年度（2019年度）熊本県知事賞作品】

昨年度は、県内のおよそ6万人の児童生徒の皆さんが取り組みました。根気よく継続的に取り組まれた作品や、今の時代を象徴するような作品など多くの力作が出品されました。

熊本大学教育学部附属小学校 4年 富田 蒼渚	「カブトムシは不思議がいっぱい④」
熊本市立出水南小学校 6年 白石 春樹	「水生昆虫の最進化形・ミズスマシを徹底調査」
山鹿市立米野岳中学校 2年 荒木 陽輝 古庄 彩乃 前田 遥咲	「自然にやさしいプラスチックの製作」
熊本県立宇土高等学校 科学部物理班 窪田 瑛仁 ほか7名	「屈折率の研究Ⅲ ～測定アプリの開発に成功～」

休校期間の学びの支援として

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休校が続きました。登校できない毎日の中でも、身近な自然に触れ、新たな学びの機会をつくるため、県内の児童・生徒から不思議に思うことと、科学に関する絵を募集しました。「アサガオの花の色」や「テントウムシのはね」についてなどたくさんの不思議や、丁寧に描かれた絵が寄せられました。科学研究のテーマ決めの参考にしてほしいと思います。応募された作品や、科学展についての詳細は教育センターのホームページで！！ <https://www.higo.ed.jp/center/kagakuten>



この記事に関する問い合わせ先：教育センター 0968(44)6611

編集・発行：熊本県教育庁教育政策課

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

Tel：096(333)2699 Mail：kyouikuseisaku@pref.kumamoto.lg.jp

☆本誌に対するご意見やご感想はお気軽にどうぞ☆